



東椎屋の滝（宇佐市安心院町）

発行
大分県議会県民クラブ
大分市大手町 3-1-1
TEL：097-506-5088
FAX：097-538-0136
<https://kenmin-club.com/>
題字：草刈樵峰

第3回定例県議会 賃上げと物価の好循環を創出



九月四日に開会した二〇二五年第三回定例県議会は、九月二十四日上程議案に対する採決が行われ、二十一日間にわたる全会議日程を終えました。

■持続可能な賃上げの環境づくり

大分県の最低賃金は前年から八十一円引き上げられる見込みです。この引き上げ額は過去最高ですが、この流れを持続的な成長につなげるには、中小企業が賃上げに踏み出せる環境づくりが欠かせません。

■米国関税措置に伴う県債産業の影響について

県が県内五百社を調査したところ、米国関税について「影響がある」と答えた企業は二十四社あったそうです。影響が懸念される自動車産業では、本県に立地するダイハツ九州は国内市場向けの生産が中心でもあり、大きな影響はないと確認されています。

その他、加工品や農林水産物の輸出については、一部で減少はあるものの、酒類、養殖ブリや牛肉などの主な輸出品目は、継続的に出荷されているようです。

引き続き、本県への影響を的確に見極めていかなければなりません。

＊米国関税については裏面の「竹の子記」にコメントを記載

補正予算・事業概要

今議会では、賃金と物価の好循環の創出に向け、賃上げと人手不足対策に必要な経費を計上するとともに、安心・元気・未来創造ビジョン2024の実現に向けた取組を推進するとして補正予算を審議しました。

＜補正後の一般会計予算＞

補正額の合計：	10,833,784千円
既決予算額：	703,093,440千円
累計予算総額：	713,927,224千円
(歳入財源の内訳)	
○国庫支出金：	1,506,084千円
○繰入金：	250,000千円
	(ふるさとおおいた応援基金)
○繰越金：	9,077,700千円

＜事業概要＞

賃上げと人手不足対策

5事業：
790,694千円

1. 中小企業等業務改善支援事業

最低賃金が大幅に引きあがる状況下、生産性向上による持続的な賃上げの実現を図るため、国の業務改善助成金の採択を受けた中小企業等に対する県独自の上乘せ支援を拡充する。

- ・対象 最低賃金改定幅を超えて事業場内最低賃金を引き上げた中小企業・小規模事業者 【37,500千円】

2. 農業担い手確保・育成対策事業

担い手が減少するなか、農業者の生産性向上や規模拡大を図るため、農業支援サービス事業体の立ち上げに要する経費に対し助成する。

- ・ニーズ調査、サービス提供の試行等 補助率10割
 - ・スマート農業機械等の導入 補助率1/2
- 【72,802千円】

安心・元気・未来創造 ビジョン2024の推進

6事業：
3,991,222千円

1. 入院小児患者付添い環境改善事業

入院中の子どもへの付添い環境の改善を図るため、付き添う家族が休息できるスペースの設置等に取り組む医療機関を支援する。

- ・施設改修に要する経費への助成 (750万円/医療機関)
- ・備品整備に要する経費への助成 (2万円/小児病床) 【18,780千円】

2. 企業立地促進等基金積立金

戦略的・効果的な企業誘致と産業集積を更に推進するため、決算剰余金の一部を企業立地促進等基金に積み立てる。

【1,000,000千円】

3. おおいた元気創出基金積立金

「安心・元気・未来創造ビジョン2024」の実現に向けた新たな施策展開に備え、決算剰余金の一部を「おおいた元気創出基金」に積み立てる。

【1,936,442千円】

※その他、決算剰余金の基金への積立

今後の健全な財政運営を図るため、令和6年度決算剰余に伴う繰越金の一部を財政調整用基金などに積み立てる。

- ・財政調整基金：3,025,934千円
- ・減債基金：3,025,934千円

農林水産委員会 県外所管事務調査

第3回定例会を前に、私の所属する農林水産委員会は、滋賀県と愛知県を訪問し、現地視察・調査を行いました。

1 近江牛岡喜本店・(有)岡喜牧場大中牧場 (8月25日：滋賀県近江八幡市・蒲生郡竜王町)

先代から家業を引き継いだ3兄弟が、近江牛の肥育、販売、流通を役割分担して倒産の危機から奇跡の復活を成し遂げる。

海外への輸出は通常は商社を経由するが、こちらは独自で手続きをとって輸出を進めています。

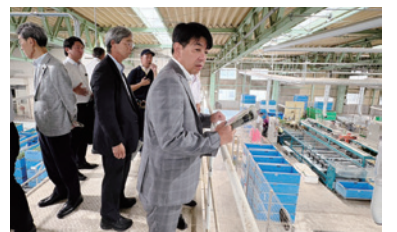
海外プロモーションも単独で実施するなど、他社と差別化を図り積極的PRに努めている。



2 J A愛知みなみマムポートセンター (8月26日：愛知県田原市)

愛知県は花きの生産が盛んで、とりわけ輪菊は日本一のシェアを持っており、田原市は愛知県の一大産地。

渥美半島は農業地帯でキャベツや大葉も大分県以上の生産量(全国7割のシェア)を誇る。



3 愛知県庁(8月26日：愛知県名古屋市)

「あいち農業イノベーションプロジェクト」について担当部局からヒアリング。愛知県には製鉄所や自動車工場等が多数立地する工業県と思いきや、農業にも抜群の生産力を有する立派な「農工併進県」。



2025年第3回 定例県議会 一般質問・答弁

詳細はHPから 大分県議会 検索

今定例会にて行った一般質問の内容を抜粋して掲載します。(全体の内容は県議会ホームページをご参照ください)

〈質問項目〉

- 一、ウェルビーイングに基づいた政策形成について
- 二、大友宗麟公生誕五百年に向けた取組について
- 三、関係人口の創出と移住支援について
- ① 二地域居住
- ② ふるさと回帰支援センター
- 四、物流拠点の強化について
- ① 教育におけるジェンダーギャップ
- ② 高校の特色化

一、ウェルビーイングに基づいた政策形成について

木田 近年注目される「ウェルビーイング」(個人の権利や自己実現が保障され、身体的・精神的・社会的に良好な状態)は、持続可能な幸福を追求する包括的な概念であり、県民生活の質向上に不可欠です。本県は幸福度ランキング全国二位ですが、さらに高みをめざすため、主観的幸福度などを定量化し、政策に反映する基盤づくりが必要です。

富山県では「ウェルビーイング推進課」を設置しています。本県でも先進事例を参考に戦略的体制を整えるべきと考えますが、知事の見解を伺います。

答弁 国の方針でウェルビーイング改善のKPI設定が示され、県政でも幸福度が重視される。本県は幸福度ランキング上位を維持し、県民調査を踏まえ「誰もが安心して活躍できる大分県」を掲げた。災害対策や子育て・健康寿命の向上、経済・文化・教育振興など多面的施策を進め、県民一人ひとりのウェルビーイング実現を目指す。

*木田の主張

県民の主観的ウェルビーイングの状態を把握するよう求める

一、大友宗麟公生誕五百年に向けた取組について

木田 二〇三〇年は大友宗麟公の生誕五百年という郷土にとって歴史的な節目を迎えます。

宗麟公は九州六か国を治めた英傑であると同時に、西欧との文化交流を推進した先駆者ですが、その評価は必ずしも定まっています。

この機会を歴史の再評価と県民の誇り醸成につなげ、文化振興や観光、教育など横断的な戦略で地域活性化を図るべきと考えますが、知事の見解を伺います。

答弁 大友宗麟公は南蛮文化や西洋医学をもたらした先駆的戦国大名で、その功績は海外にも及ぶ。県は企画展や茶道具展示、大河ドラマ誘致などを通じて顕彰



を進めている。生誕五百年は郷土の歴史再認識と魅力発信の好機であり、県は関係自治体や民間団体とも連携し、文化財活用やイベント支援を強化。機運醸成と地域活性化を図る。

*木田の主張

欧州に点在する宗麟公の絵画を県立美術館へ招致するよう求める

一、物流拠点の強化について

木田 本県は九州東側の地理的優位性を活かし、港湾を核とした物流拠点強化が不可欠です。

その財源として地方消費税の貨物割(外国貨物の輸入取引に対し課税されるもの)を戦略的に活用し、港湾物流事業基金の創設や先行投資への充当を検討すべき時期にきています。

将来のインフラ更新や災害時の代替輸送路確保を視野に、安定的財源を確保した物流基盤強化にどう取り組むのか、土木建築部長の見解を伺います。

答弁 県はビジョン2024で「九州の東の玄関口」として空港・港湾機能強化を掲げ、港湾整備を推進。本年五月には臼杵港新フェリーターミナルと大分港RORO船ターミナルが供用開始。公共施設は一般会計、利用者施設は特別会計で整備し、収益は減債基金に積立。県債も活用し財源は堅調である。今後も利用促進と収入確保に努め、物流拠点強化を進める。

*木田の主張

貨物割に関しては、使途の見える化が必要



最近の活動

7月

- ▷ こうざき海水浴場海開き・安全祈願祭
- ▷ 第75回“社会を明るくする運動”大分市推進大会
- ▷ 大分政経懇話会「石破政権と参院選の展望」(中央大学法学部教授：中北 浩爾 氏)
- ▷ 大分県戦没者追悼式(別府ビーコンプラザ)

▶ 2025連合平和行動 in 大分

今年は戦後80年の節目の年。連合大分のピースフルアクションに参加し、車上から街頭演説をしました。核兵器廃絶、在日米軍基地の整理・縮小、日米地位協定の抜本改正、北方領土返還などについてマイクを握り訴えました。

▶ 広域交通ネットワーク特別委員会県外所管事務調査(北九州市、福岡市、佐賀市、長崎市)

西九州新幹線の佐賀県内区間が完成しないと東九州新幹線は前に進みません。日豊本線ルートでの整備について様々な情報を得ました。(右の写真は新築の長崎県庁)



8月

▶ 夏休みは県議会に行こう!夏休み子ども議会見学

県内各地の小学生とテーマ(住みやすくキレイな大分県)を設けて意見交換。議員への質問コーナーでは「大分県はナゼ『おおいた』と言うのですか?」との問いに議員も緊張。



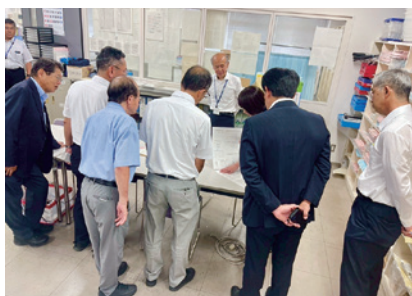
- ▷ 大分政経懇話会「大分のスポーツ資源を活かすために」(尚美学園大学名誉教授：佐野 慎輔 氏)
- ▷ 農林水産委員会県外所管事務調査(滋賀県、愛知県)
- ▷ 部落解放共闘大分県民会議2025夏期学習会
- ▷ 第4回地域懇談会(地域の活性化について語る会)

9月

- ▷ 第3回定例県議会開会
- ▷ 大分政経懇話会「日本にとって米国とは何か?〜アメリカに深く包み込まれた日本の日常〜」(東京大学名誉教授：吉見 俊哉 氏)

▶ 県立爽風館高校視察・調査

夜間中学校「大分県立学びヶ丘中学校」の設置が今回の定例会に提案され、設置場所となる定時制・通信制の爽風館高校にて調査とヒアリング。



▶ 第78回大分県民スポーツ大会(別府市)

広く県民の間にスポーツを普及・振興させ、県民の健康増進と体力の向上を図る。県議会スポーツ議連の監督として、議員ソフトボール大会に出場。惜しくも2回戦で敗退。



- ▷ 第3回定例県議会閉会
- ▷ 大分県議会都市政策研究会(大分市長との意見交換)

防災士 木田昇の

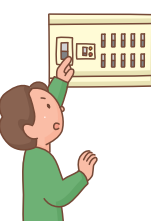
防災メモ

避難するときの注意点①

阪神・淡路大震災で亡くなられた方の約10%が焼死であったように、初期消火はとても重要です。但し、炎が天井に届くなど身の危険を感じたら消火活動をやめて避難してください。



まずは、出火の原因をつくらないことが大切です。大地震発生後、家財の中にスイッチが入った状態の電化製品があると、通電再開後に火災の恐れがあるので、ブレーカーを落としておきましょう。



また、ガス管やガス器具が壊れていると、ガスが復旧したときにガス漏れを起こして爆発の恐れがあるので、ガスの元栓を閉めておきましょう。



自分や家族の安否情報や避難先などを記録し、家の玄関などに張り紙し鍵をかけて移動します。(災害用伝言ダイヤル「171」の活用も)



公式LINEはコチラ
木田昇の議会・政務活動を随時更新中。



ご意見・ご要望なども、お気軽にご連絡ください！
*QRコードからお友達登録をよろしくお願いします。

県民クラブHPはコチラ
<https://kenmin-club.com/>



竹の子記

日本と米国の政府間交渉の始まりは、一八五三年の黒船来航に遡ります。それから約七十年が過ぎた今も米国の力関係は変わらないうです。▼トランプ大統領が持ち出した関税政策をめぐる日米交渉は、幕末の日米和親条約を連想させます。力の差の前に屈し、選択の余地なく開国を迫られ、結ばれた和親条約は、名目こそ「友好」でしたが、不平等な内容で日本は関税自主権を失い、経済の主導権を奪われました。▼今回の交渉も、構図は驚くほど似ています。米国は自動車への高関税をちらつかせ、日本に米国への優先的投資を行うよう迫りました。交渉は米国の思惑通りに進み、日本からの輸出を守る代償に資本を差し出す姿は、黒船来航時の江戸幕府を思わせます。▼日本は世界有数の経済力を持ち、国際社会で発言力を持つ立場のはずです。それでもなお、通商交渉で譲歩を重ね、相手の顔色をうかがうばかりでよいのでしょうか。歴史が示すのは、屈従の代償は、やがて自国民の肩に重くのしかかるという現実です。▼米軍基地や日米地位協定の見直しも進捗が見られませんが、いつになったら米国の軛から逃れられるのか、その問いは日本政府には答えなければなりません。

